



JASSOソーシャルファイナンス

資金充当・社会的インパクトレポート

2024年度

2025年12月

本機構の事業と関連するSDGs

- 本機構は、経済的理由で修学が困難な優れた学生等に学資の貸与及び給付を行う奨学金事業、留学生交流の推進などを行う留学生支援事業、キャリア教育・就職支援や障害のある学生等への支援などを行う学生生活支援事業に取り組んでいます。いずれの事業もSDGsの目標4.「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。」等の達成に貢献しています。

奨学金事業

憲法、教育基本法に定める「教育の機会均等」の理念のもと、経済的理由で修学が困難な優れた学生等に学資の貸与及び給付を行っています。

- 貸与奨学金
- 給付奨学金

留学生支援事業

グローバル化が進展する中、留学生交流を一層推進するため、外国人留学生の受入れ・日本人留学生の派遣の両面から、奨学金の支給、情報提供等の支援事業を行っています。

- 外国人留学生の受入れ
- 日本人学生の海外留学推進
- 留学生交流担当教職員等への支援

学生生活支援事業

キャリア教育・就職支援や障害のある学生等への支援など、政策上特に重要性が高いものについて、好事例の収集・提供、調査、研修等を通じ、大学等の取組を支援しています。

- キャリア教育・就職支援事業
- 障害のある学生や固有のニーズがある学生の支援
- 学生生活・学生生活支援に関する情報の収集・分析・提供

関連するSDGs（持続可能な開発目標）

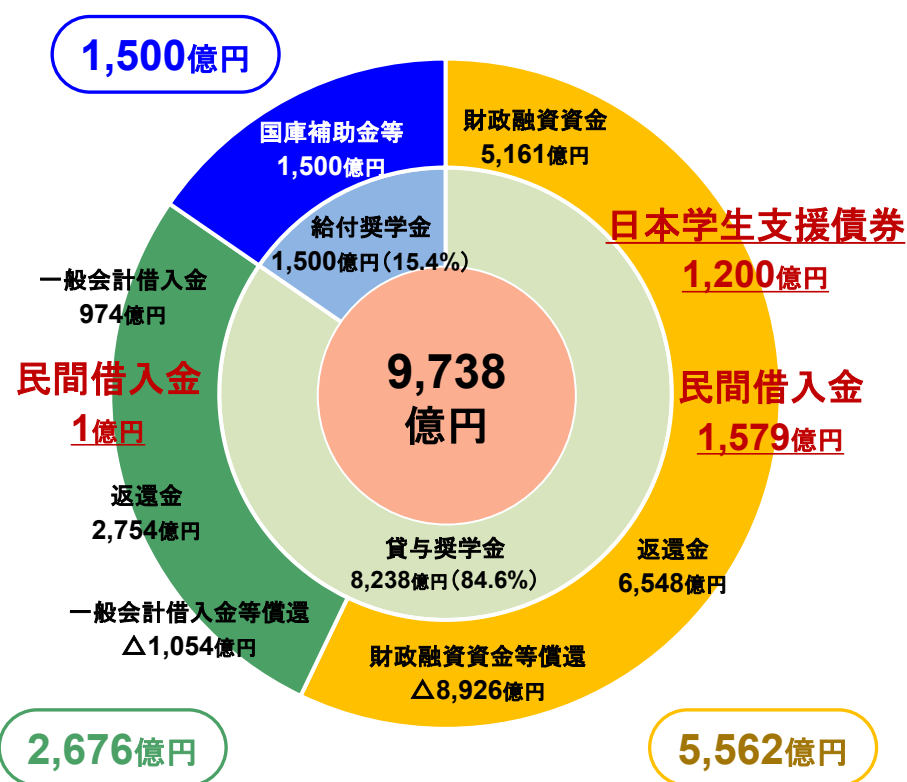
- 目標4 : 質の高い教育をみんなに
- 目標8 : 働きがいも 経済成長も
- 目標10 : 人や国の不平等をなくそう
- 目標17 : パートナリシップで目標を達成しよう

プロジェクトの概要(1)

- 貸与・給付する学資金を「奨学金」といい、奨学金の貸与・給付を受ける者を「奨学生」といいます。
 - 奨学金には、「給付奨学金」と「貸与奨学金」があり、貸与奨学金には「第一種奨学金」と「第二種奨学金」があります。
- 奨学金の対象者は、大学、短大、大学院、高等専門学校、専修学校(専門課程)に在学する学生・生徒です。

令和6年度 奨学金事業に係る財源内訳(実績)

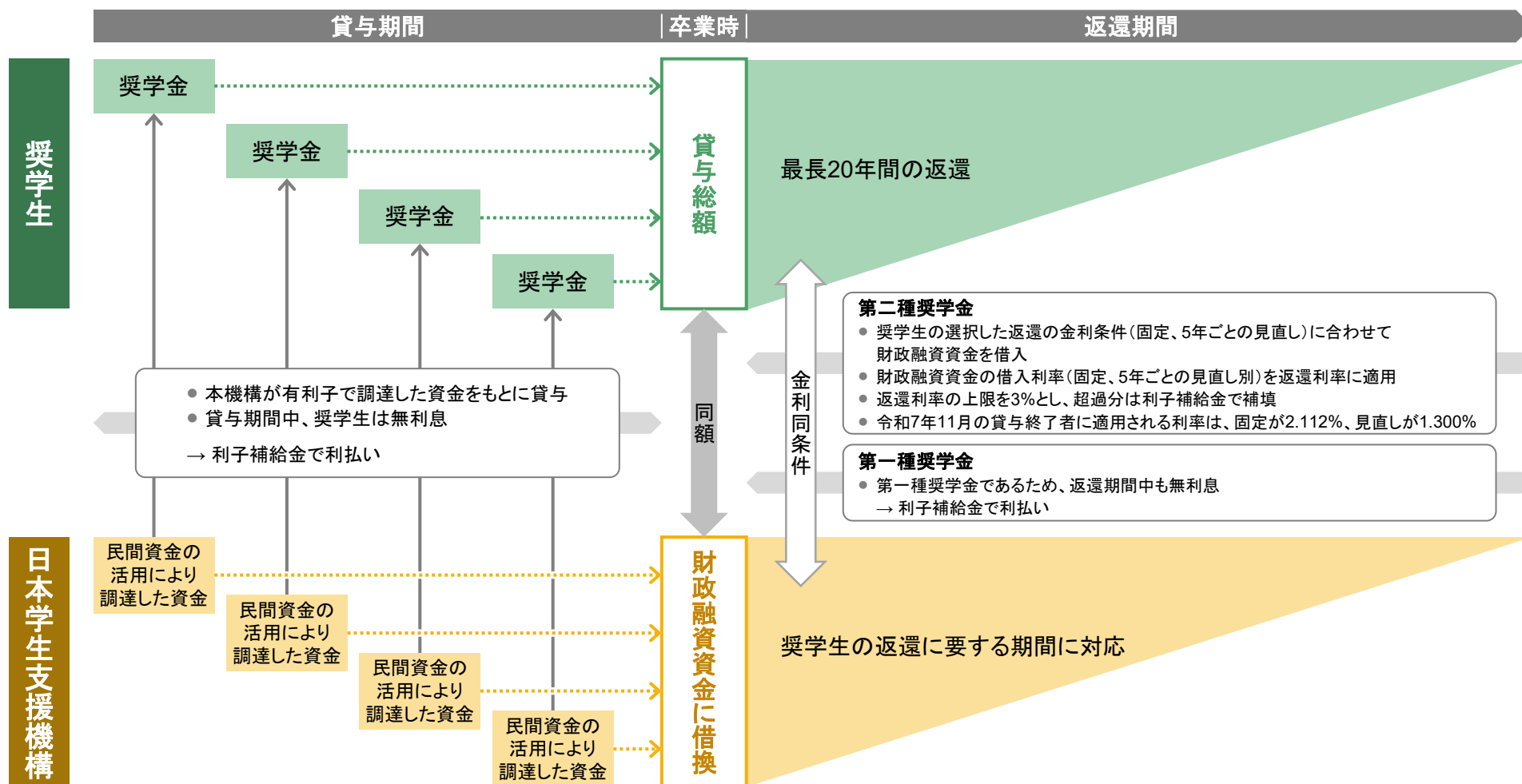
給付奨学金	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成29年度に一部先行実施、30年度に本格的にスタート ● 高等教育の修学支援新制度(授業料等の減免・給付奨学金)として住民税非課税世帯及び準ずる世帯の学生・生徒が対象 ● 原則として返還義務のない奨学金
貸与奨学金 第一種奨学金	<ul style="list-style-type: none"> ● 昭和18年度にスタート ● 特に優れた学生・生徒で、経済的理由により著しく修学が困難な者に貸与 ● 無利息で貸与を行う奨学金
貸与奨学金 第二種奨学金	<ul style="list-style-type: none"> ● 昭和59年度にスタート ● 第一種奨学金よりも緩やかな基準によって選考された者に貸与 ● 利息を付して貸与を行う奨学金



プロジェクトの概要(2)

- ソーシャルファイナンスにより調達した資金は、「**第一種奨学金**及び**第二種奨学金の学資金**」として、奨学生に貸与されます。

資金の流れ



※ 民間資金(債券発行及び借入金)の活用により調達した資金は、在学中資金に充当

- 日本学生支援機構[Japan Student Services Organization 略称: JASSO]のソーシャルファイナンス・フレームワークに基づき調達された資金は、JASSOの貸与奨学金として活用され、以下のインパクトの実現に寄与しています。

我が国の大学等において学ぶ学生等
に対する適切な修学の環境を整備

次代の社会を担う豊かな人間性を
備えた創造的な人材の育成

資金使途・社会的便益に関するレポート内容(1)

- ソーシャルファイナンスによる調達資金は、すべて「第一種奨学金及び第二種奨学金の在学中資金」に充当されております。

日本学生支援債券により調達した資金の使途

年度	回号	発行日	償還日	資金充当額	未充当の資金充当残高	リファイナンス比率
令和5年度	第74回債	R06.02.07	R08.02.20	300億円	0円	0%
令和6年度	第75回債	R06.06.07	R08.06.19	300億円	0円	0%
	第76回債	R06.09.09	R08.09.18	300億円	0円	0%
	第77回債	R06.11.07	R08.11.20	300億円	0円	0%
	第78回債	R07.02.06	R09.02.19	300億円	0円	0%
令和7年度	第79回債	R07.06.09	R09.06.18	300億円	0円	0%
	第80回債	R07.09.09	R09.09.17	300億円	0円	0%
	第81回債	R07.11.07	R09.11.19	300億円	0円	0%

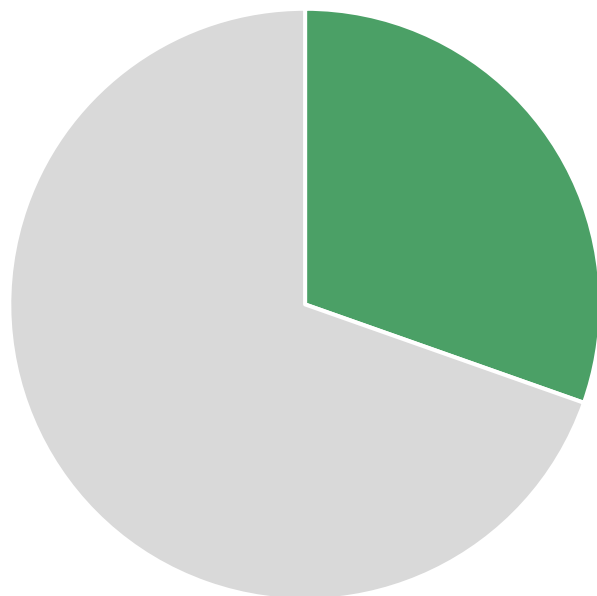
民間借入により調達した資金の使途

年度	借入日	償還日	資金充当額	未充当の資金充当残高	リファイナンス比率
令和6年度	R07.01.08	R08.01.07	600億円	0円	0%
	R07.02.06	R08.02.06	580億円	0円	0%
	R07.03.07	R08.03.09	400億円	0円	0%

年度末における残高

年度	貸与奨学金 総貸付残高	貸与奨学金 当年度貸与額	ソーシャルボンド残高	ソーシャルローン残高
令和6年度末	92,724億円	8,238億円	2,400億円	1,580億円

資金使途・社会的便益に関するレポート内容(2)



貸与割合

30.4%
3.3人に1人

- 令和6年度の我が国の高等教育機関で学ぶ**学生358万人のうち、109万人がJASSOの貸与奨学金**を利用しており、その割合は**30.4%**になります。
- 3.3人に1人の学生がJASSOの貸与奨学金**を利用していることになります。

参考情報 高等教育機関への進学率等

年度	18歳人口 出所: 文部科学省 「学校基本調査」	高等教育機関への進学率 出所: 文部科学省「学校基本調査」	高等教育機関で学ぶ学生数 出所: 本機構	貸与奨学金利用者数 出所: 本機構	貸与割合
令和6年度	106万人	87.3%	357.8万人	108.7万人	30.4%

資金使途・社会的便益に関するレポート内容(3)

貸与奨学金の貸与実績

年度	年度別貸与人員		年度別貸与金額		基準を満たす申請者のうち 奨学金を貸与された 奨学生の割合
	第一種奨学金	第二種奨学金	第一種奨学金	第二種奨学金	
令和6年度	46.5万人	62.3万人	2,676億円	5,562億円	100%
(参考) 令和5年度	46.2万人	64.4万人	2,693億円	5,636億円	100%

貸与人員詳細 (令和6年度)

	貸与人員		貸与金額		在学学校数							
	第一種奨学金	第二種奨学金	第一種奨学金	第二種奨学金	第一種奨学金				第二種奨学金			
					計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立
全体	46.47万人	62.25万人	2,676億円	5,562億円	3,459校	183校	293校	2,983校	3,461校	183校	292校	2,986校
大学・短大	34.46万人	49.76万人	1,862億円	4,344億円	1,078校	83校	114校	881校	1,079校	83校	114校	882校
大学院	4.69万人	0.61万人	433億円	67億円	551校	86校	79校	386校	448校	84校	61校	303校
高等専門学校	0.12万人	0.04万人	4億円	2億円	56校	51校	3校	2校	56校	51校	3校	2校
専修学校(専門課程)	7.19万人	11.85万人	377億円	1,149億円	2,307校	45校	174校	2,088校	2,306校	45校	173校	2,088校

(参考) 緊急・応急採用

(予期できない事由により家計が急変した場合)

- 生計維持者(原則父母)の死亡や事故、病気、失職、または震災等の自然災害といった予期できない事由で家計が急変し、緊急に奨学金の必要が生じた場合、年間を通じて随時申し込みができます。

緊急・応急採用(災害・家計急変等)による特別採用数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1,077人	757人	572人	474人	541人

資金使途・社会的便益に関するレポート内容(4)

奨学金の返還に関する各種制度

減額返還制度

(月々の約束した金額の返還は困難であるが、減額すれば返還できる場合)

- 災害、傷病、その他経済的理由により奨学金の返還が困難な方の中で、月々の約定金額を減額すれば返還可能である方※を対象として、一定期間、割賦金を3分の2、2分の1、3分の1又は4分の1に減額し、減額返還適用期間に応じて、返還期間を延長する制度です。

減額 返還制度の 適用期間

減額返還制度を適用できる期間は**最長15年**

※ 平成29年度以降採用者の第一種奨学金「所得連動返還方式」を除く

返還期限猶予制度

(現在の返還が困難であるため、一定期間返還を待つてほしい場合)

- 災害、傷病、経済困難、失業、生活保護受給中などの返還困難な事情が生じた場合に、願出により返還期限を猶予する制度です。

返還期限 猶予制度の 適用期間

返還期限猶予制度を適用できる期間は**通算10年**
(一部事由により制限なし)

延滞者への 返還期限猶予 の適用

延滞者であっても、傷病、生活保護受給中等、真に返還が困難な場合は、延滞分を据え置き、猶予申請月より返還期限猶予を適用

返還免除制度

- 死亡、精神・身体の障害によって返還ができなくなった場合に、願出により返還を免除する制度です。
このほかに、大学院で受けた第一種奨学金については、「特に優れた業績による返還免除制度」を設けています。

ご存知ですか？
教師になった方に対する
奨学金の返還免除制度

2024年度から
スタートします！

対象者
大学において、第一種奨学金の貸与を受けた学生で、教職課程修了に合格し、在職している大学の教職に就いた者(以下「教職者」とする。)

教職者として返還免除となる条件
教職大学院以外の大学院に在籍している場合
・教職採用試験等 (以下「合格」)
・教職大学院修了の修業年限から正規教員として採用予定 (以下「採用予定」)
・最年度 (4年10単位) に正規教員として在職している (以下「在職」)
のすべてを満たす方

教職者として返還免除となる条件
教職大学院以外の大学院に在籍している場合
・教職採用試験等 (以下「合格」)
・教職大学院修了の修業年限から正規教員として採用予定 (以下「採用予定」)
・最年度 (4年10単位) に正規教員として在職している (以下「在職」)
のすべてを満たす方

返還免除の対象となる奨学金
大学在籍時に貸与を受けた第一種奨学金 (貸与期間中に在学していた期間)
※ 大学在籍時に貸与を受けた第二種奨学金は、返還免除の対象とはなりません。

申請スケジュール
2025年3月までに、所属する大学の教職課程修了の認定を受け、返還免除の申請を行う。

2025年3月までに、所属する大学の教職課程修了の認定を受け、返還免除の申請を行う。

2025年3月までに、所属する大学の教職課程修了の認定を受け、返還免除の申請を行う。

(令和6年度～) 「教師になった方に対する 奨学金の返還免除制度」

特に優れた業績を挙げたと認められる方で、
・教職大学院を修了又は教職課程認定の
大学院を一定の条件のもと修了
・正規教員として採用

→ 条件を全て満たした対象者は、
大学院在籍時に貸与を受けた
第一種奨学金を**全額返還免除**

資金使途・社会的便益に関するレポートニング内容(5)

奨学金の利用にあたっての情報提供

- 奨学金の利用を考えている高校生・大学生等を対象に、進学又は修学するために必要な経済的負担についての不安を軽減し、安心して奨学金を利用するための情報を提供しています。

スカラーシップ・アドバイザー派遣事業

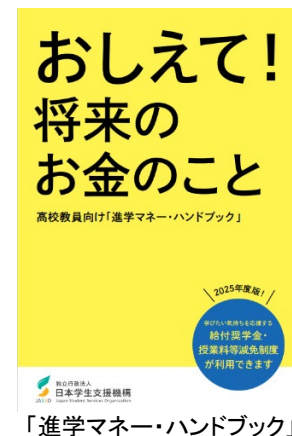
- JASSOの研修を修了し、「スカラーシップ・アドバイザー」の認定を受けたファイナンシャルプランナーを希望する学校等に派遣し、奨学金制度について説明するとともに、進学・修学のための資金計画の説明・助言等を行う事業です。
事業を開始した平成29年度以降、全国の高等学校等に、3,098件の派遣実績があります。(令和7年2月末現在)

※ オンライン版ガイダンス(オンデマンド型の音声説明付資料)の配信も実施しております。

対象者		大学等への進学を考えている、 高校生やその保護者 等
派遣先 (例)	高等学校、高等課程を 置く専修学校等	「総合的な学習の時間」、 進学説明会、保護者会 等
	大学、専門課程を置く 専修学校等	在学する学生向けの資金計画説明会 高校生等向けの学校説明会 オープンキャンパス 等
	教育委員会、PTA等	各教育委員会の進学説明会、 PTAセミナー 等
	児童養護施設、 社会福祉協議会等	児童養護施設等での進学を希望する 在所者向け行事、社会福祉協議会主催 の進学のための教育資金の説明会 等

進学後の資金に関する情報提供

進学マネー・ ハンドブック	高等学校等の教員を対象に、生徒や保護者等に対して、 大学等への進学のためのマネープランに関してアドバイ スができるよう、必要な情報をまとめた冊子を作成
進学資金 シミュレーター	進学のための資金計画を試算することで、進学後に必要 な資金を把握することが可能なシミュレーター
奨学金貸与・ 返還シミュレーション	奨学金の貸与額や将来の返還額等を試算することで、奨 学金を申込む前に必要な貸与額を確認することが可能な シミュレーター



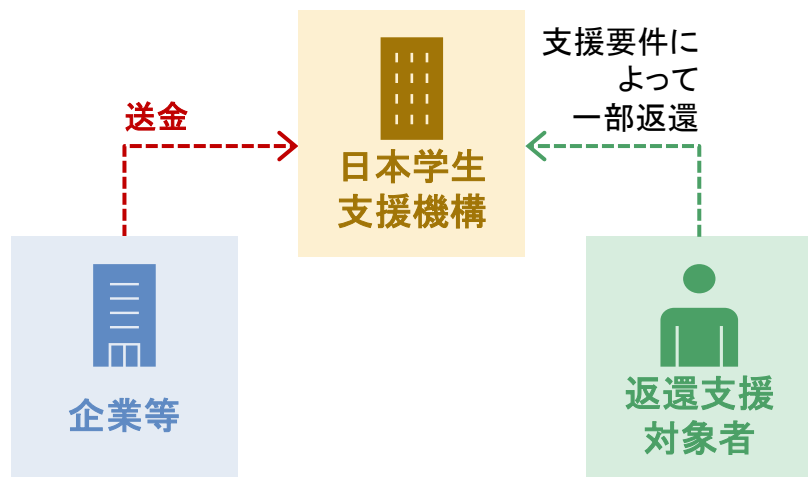
資金使途・社会的便益に関するレポート内容(6)

企業等の奨学金返還支援(代理返還)

- 将来、各企業の担い手となる奨学金返還者を応援するための取組として、従業員の奨学金返還残額を、企業等が本機構へ直接送金する制度です。
- 本機構の貸与奨学金(第一種奨学金・第二種奨学金)を受けていた従業員(返還支援対象者)に対し、企業等が返還残額の一部又は全額を支援するものです。

奨学金返還支援(代理返還)

企業等 ⇒ 本機構への直接送金が可能



- 4,052社が本制度を利用(令和7年8月末現在)

- 本制度の概要やお問い合わせ先

<https://dairihenkan.jasso.go.jp/>



- 本制度を利用している又は利用予定の企業等名及び返還支援要件等の情報

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/kigyoshien/index.html>

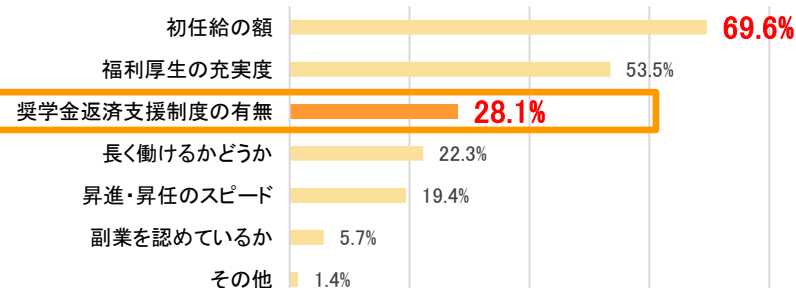


奨学金返還支援(代理返還)制度のポイント

1. 「若手人材」へアプローチ
2. 「人材の定着」で離職率低減
3. 経費の一部としての「課税優遇」
4. 企業等の「イメージ向上」

人材確保

奨学金の返済があることで注目した企業のポイントのうち、 28.1%が奨学金返還支援制度の有無に注目



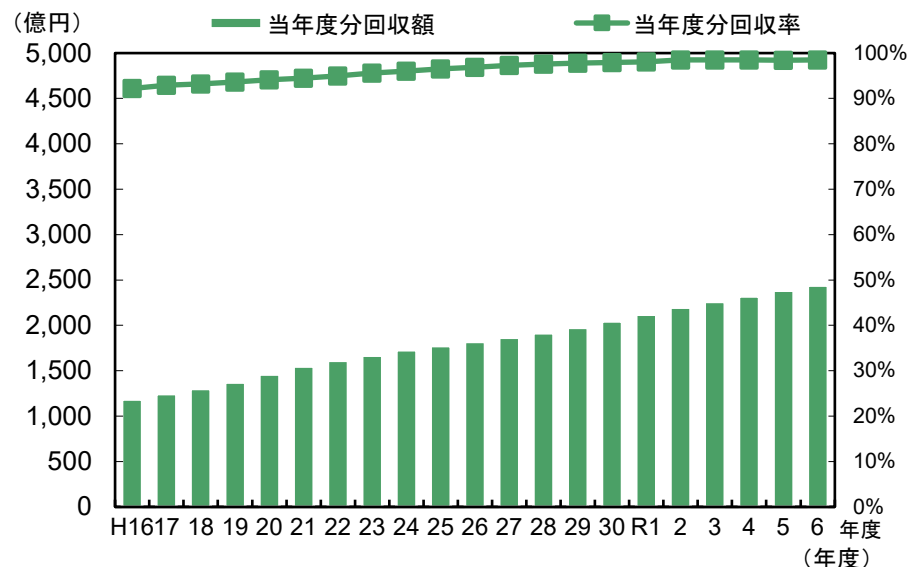
出所: マイナビ「2026年卒 大学生キャリア意向調査6月＜奨学金について＞」

資金使途・社会的便益に関するレポート内容(7)

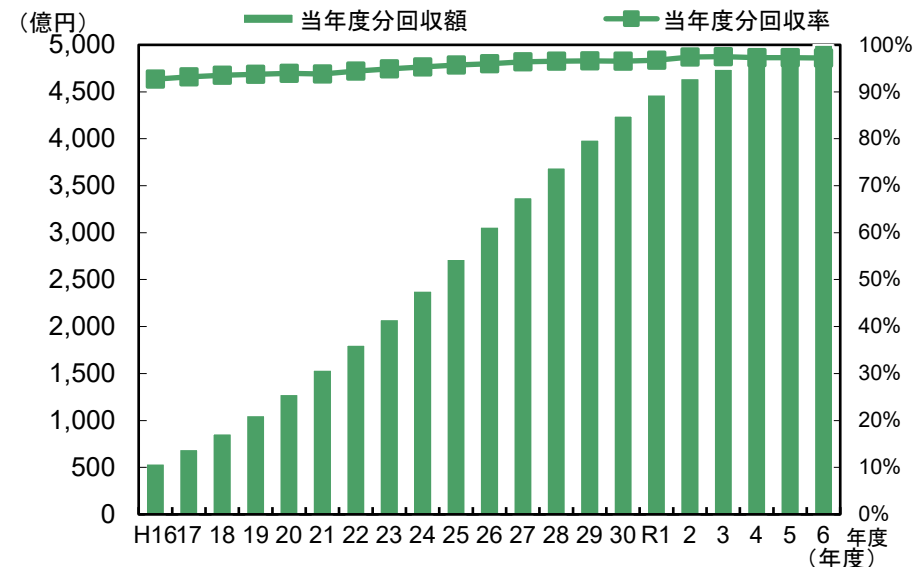
- 令和6年度に返還期日が到来したものの回収率は、第一種奨学金が**98.5%**、第二種奨学金が**97.2%**となっています。

返還金の回収状況

第一種奨学金



第二種奨学金



(参考)債権の状況

	第一種奨学金					第二種奨学金					全体				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
総貸付残高(A)	29,173	29,034	28,840	28,609	28,353	66,747	66,322	65,772	65,092	64,371	95,920	95,356	94,613	93,701	92,724
要返還債権(B)	21,523	22,031	22,447	22,574	22,444	53,611	53,525	53,140	52,709	52,275	75,134	75,556	75,587	75,283	74,719
3ヵ月以上延滞債権(C)	533	512	509	511	480	1,536	1,505	1,553	1,602	1,566	2,069	2,017	2,062	2,113	2,046
総貸付残高に対する3ヵ月以上延滞債権比率(C/A)	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.7%	2.3%	2.3%	2.4%	2.5%	2.4%	2.2%	2.1%	2.2%	2.3%	2.2%
要返還債権に対する3ヵ月以上延滞債権比率(C/B)	2.5%	2.3%	2.3%	2.3%	2.1%	2.9%	2.8%	2.9%	3.0%	3.0%	2.8%	2.7%	2.7%	2.8%	2.7%

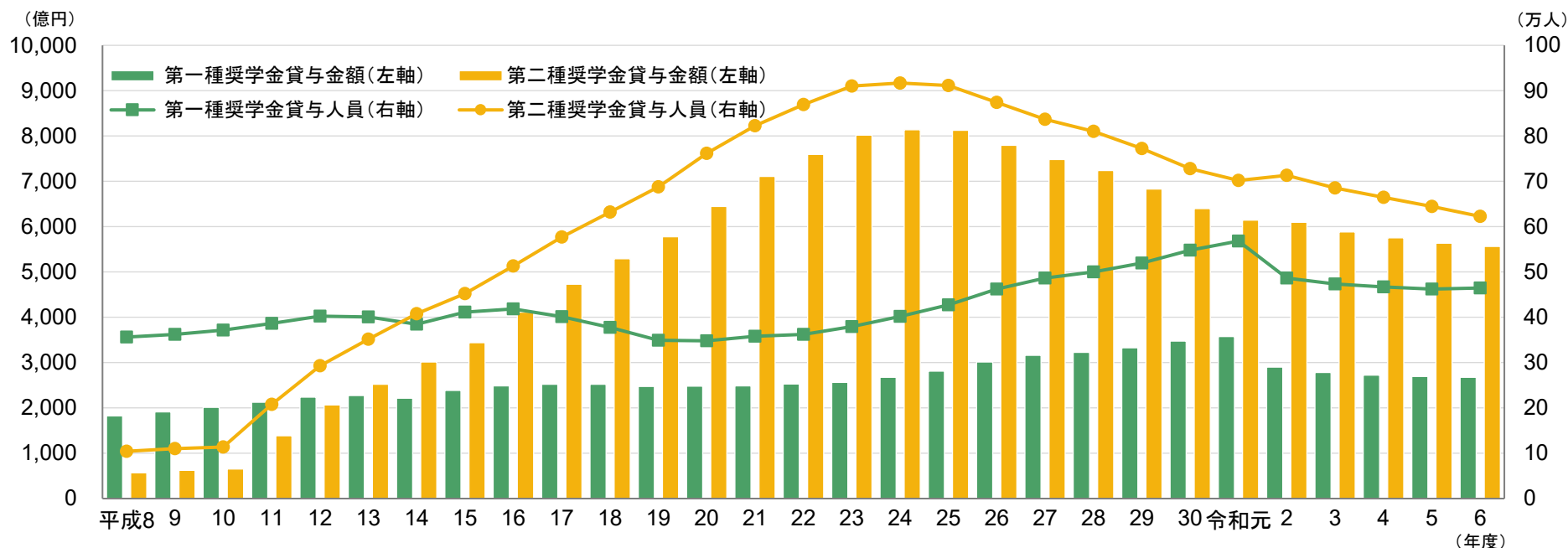
(参考)貸与奨学金の推移

- 意欲と能力のある学生・生徒が、経済的事由により修学を断念することがないように、貸与基準を満たす希望者全員に対する貸与を確実に実施することとしています。
- 第一種奨学金については、平成29年度以降、残存適格者を解消するとともに、住民税非課税世帯等の学生・生徒に係る成績基準を実質的に撤廃しています。
- 第二種奨学金については、平成11年4月に制度の抜本的拡充を行うとともに、採用基準についても緩和しました。

令和7年度の予算規模

	貸与人員	貸与金額
第一種	48.1万人	2,805億円
第二種	65.3万人	5,854億円
計	113.4万人	8,660億円

年度別奨学金貸与金額及び人数



本機構(旧日本育英会を含む)の奨学金貸与事業では、事業開始(昭和18年)以来、
82年間で約1,556万人に対して、奨学金を貸与(**累計額約26兆円**)しています。

(参考)給付奨学金の給付実績

- 令和6年度の給付実績は**35万人、1,500億円**です。
- 平成29年度の制度創設以降、令和6年度までに**延べ169万人、累計7,433億円**を支給しました。
- 給付奨学金の適格性は、貸与奨学金より厳格な基準により審査され、給付奨学金継続の可否等を決定しています。

令和2年度～令和6年度における奨学金の給付状況(実績)

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
給付人員(人)	276,870	321,833	337,389	341,813	350,628
給付金額(億円)	1,231	1,437	1,507	1,528	1,500

(参考)感謝のことば

奨学金事業に寄せられた感謝のことばをご紹介します。

奨学金を貸していただいたおかげで、娘を大学に通わせることができました。ありがとうございました。四年間真面目に勉強し、卒業時には奨励賞をいただきました。感謝しております。

奨学金制度があったから、大学まで行かせてやれました。無事に卒業もし、保育士として、結婚後も働いています。母子家庭の私にはとてもありがたい制度です。ありがとうございました。

奨学金制度のおかげでとても充実した学生生活ができました。ありがとうございました。現在返還中で、一時返還が厳しい時もありましたが、丁寧に説明して下さったスタッフの方のおかげで手続きを行うことができました。完済まで長いですが頑張ろうと思います。

大学院進学にあたり本奨学金制度を利用しました。1年浪人したこともあり大学院のお金まで親に頼るのは憚られ、無利息で借りられる奨学金を選択しました。結果大変助かりましたし、充実した学生生活を送ることができました。私にとってはとてもありがたく、若い学生の方にもぜひ活用してほしいと感じます。お世話になりました。ありがとうございます。

無利息で借りる事が出来たり、返還期限猶予制度があったりと、学生を支援する制度としてとても良いものと思い、感謝しております。世の中を見渡しても、そんなふうに資金を貸与してくれるところはどこにもありません。私も、滞納で困った時、返還期限猶予制度にずいぶん助けられました。次の世代の方々に、奨学金制度を活用していただけるよう、頑張って返還します。

JASSOのおかげでロースクールに進学できて、司法試験に合格できました。ありがとうございます。進学が自己投資という自覚が持てたのは親の力を借りずに自分の負担で学費を払えたからだと思うので、それを可能にしてくれて感謝しています。

子育て中につき返還を延期していただいています。制度のおかげで安心して子育てに専念することが出来ています。子供が就学するまでの残り数年も返還を延期してしまうと思いますが、その後は私のように奨学金制度のおかげで進学が可能となる子が1人でも増えるよう、返還をしていきたいと心より思っています。いつもありがとうございます。

日本学生支援機構には大変お世話になっておりありがたく制度を利用させていただいております。今は病気で返還できておりませんが、猶予させていただけて本当に助かっております。おかげで何とか生活させていただいております。

留学生支援事業、学生生活支援事業に寄せられた感謝のことばもご紹介しております。本機構HPをご覧ください。

<https://www.jasso.go.jp/about/goiken/kansha/index.html>

- 本資料は情報提供のみを目的としたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。
- ご投資の判断にあたりましては、入手可能な直近の情報を必ずご確認ください、皆さまご自身の責任でご判断くださいますようお願い申し上げます。

シンボルマーク



グリーン色の部分は、若者が可能性をひらくすがたを“翼”のかたちであらわしています。

オレンジ色の部分は、若者たちを支援する日本学生支援機構の役割を“掌”のかたちであらわしています。

この2つの図形が合体し、アルファベットの“S”をかたちづくっています。

“S”はStudent Services の頭文字を意味しています。

翼のグリーン色は、若者たちが成長していくすこやかさを、掌のオレンジ色は、若者たちを見守る日本学生支援機構の理念と活動の姿勢をあらわしています。

お問い合わせ先

独立行政法人日本学生支援機構 財務部資金管理課

TEL: 03-6743-6024 (ダイヤルイン) FAX: 03-6743-6665

投資家の皆さま向けのホームページもございます

<https://www.jasso.go.jp/about/ir/index.html>

JASSO IR情報



検索



独立行政法人

日本学生支援機構

JASSO Japan Student Services Organization